

## 「つれもてやろら！まちづくり」フォーラム

日 時	平成 16 年 2 月 15 日(日)14:20～17:30
場 所	勤労者総合センター ホール

### (1)フォーラムの目的

- ・これまでのワークショップの成果を報告する。
- ・外部から実務者・学識者を迎え、これまでのワークショップ活動内容に対する意見をもらうとともに、新たな見地を整理する。
- ・上記2点を市民に周知し、ワークショップメンバーだけでなくより多くの人々に問題意識を持ってもらう。
- ・次年度以降、新たな活動が生まれる素地を形成する。

### (2)プログラム

14:20	<b>オープニング・イベント</b> 『和歌山MOVE』による、よさこいパフォーマンス
14:30	<b>開会挨拶</b> 大橋 建一 (和歌山市長)
14:40	<b>講演(事例報告)</b> 『大阪・堀江のまちづくりの「しかけ」』 能口 仁宏 氏 (大阪・堀江ユニオン副会長)
15:10	<b>『つれもてやろら！まちづくり』ワークショップ 成果報告</b> 『ぶらくり丁周辺の明日に向けた私たちの提案』 道広 佑佳 氏・永井 択 氏 (商店街活性化チーム) 青木 彦藏 氏 (核づくりチーム) 栗須 太器治 氏(暮らしづくりチーム) 塩崎 朗浩 氏 (情報発信戦略チーム)
15:40	<b>講演</b> 『まちづくりの「オーナーシップ」をつれもて考えよう！』 角野 幸博 氏 (武庫川女子大学生生活環境学部教授)
16:10	<b>休憩</b>
16:20	<b>パネルディスカッション</b> 『つれもてやろら！まちづくり』 コーディネイター:角野 幸博 氏 (武庫川女子大学生生活環境学部教授) パネラー: 能口 仁宏 氏 (大阪・堀江ユニオン副会長) 本多 友常 氏 (和歌山大学システム工学部教授) 道本 浩司 氏 ((株)サイバーリンクス) 岩橋 瑞子 氏 ((株)和歌山リビング新聞社) 有村 慶太 氏 (和歌山大学 学生)
17:20	<b>閉会挨拶</b>

### (3) フォーラム概要(議事要旨)

#### ア オープニングイベント

フォーラム開催にあたりフォーラムをより一層盛り上げるため、『和歌山MOVE』による、よさこいパフォーマンスを行った。



#### イ 市長挨拶

##### 【概要】

昨年、「つれもてやろら！まちづくり」ワークショップを立ち上げ、市民の方々、地元の商業者の方々、本町、城北両地区の住民の方々、市の職員プロジェクトチーム協働で中心市街地をどうやって元気にするかということを中心に研究・討議を行った。

ワークショップでは、まちづくりについて専門の先生から講演を聞いたり、ぶらくり丁を実際に歩いてみたりと、様々な取り組みを行ってきた。

本日はその集大成としてフォーラムを開催する。本日のフォーラムにおいて様々な意見を戦わせることで、新しい明るい展望を開いていきたいと強く思っている。



#### ウ 『大阪・堀江のまちづくりの「しかげ」』 能口仁宏氏(大阪・堀江ユニオン副会長)

まちを活性化させるためには何が必要なのか。堀江を活性化させた「実務者」としての意見を伺った。

##### 【講演概要】

#### 「犬、猫一匹通らないまち」からの再生:少人数のプロジェクトチームの熱意が地域を変える転機に

今でこそ若者で賑わう堀江も、十数年前までは「日曜日に犬、猫一匹いないまち」と言われるくらい衰退していた。このような状況の中、先代に「若手で集まって、何か活性化の活動をやしてほしい」と言われたことが、活動の始まりである。

これには、「商店街で活性化活動すれば大阪市からの助成金がもらえる」という先代の思惑があったのだが、我々にとっては自らが主体となり活動を行えるチャンスであった。

ともかくにも当時の最大の課題は、まちを活性化させようという意識をもった人間が少なかったことである。商店街に2代目が集まる組織があったが、「若い」というだけで、意識は非常に低かった。



そのため活動を開始するに当たっては、人数を増やすことよりも「本当に堀江を活性化したい」という意思を持つ人たちが集まることを重視した。

結果、活動を立ち上げた当初は、現堀江ユニオン会長などを含めた数人であった。堀江の活性化はこの少人数のプロジェクトチームが中心となり、動き始めたのである。

### **行政主導の活性化策からの脱却：「地域」、「時代」に合った活性化の方策を自らが考える**

活動当初はお決まり的な活性化方策を行った。「商店街の名称変更」や「他地域の活性化商店街視察」などである。つまりは、行政の補助金をもらうための活動であったと言える。

これらの活動の効果はなかった。しかしこういった活動が「自分たちで堀江にあった活性化方策を見つけよう」と考えるきっかけとなったのである。

自分達で堀江に合った活性化方策として考えたのが「まちなかでのフリーマーケットの開催」であった。

この発想は、イギリスのアンティーク家具のまちの活性化方策からアイデアを得ている。これらのまちは「市」とそれを彩るイベントを定期的に仕掛けることによって活性化に成功したという。堀江と同じ「家具のまち」という共通点を持っているということに加え、「市」だけで仕掛けるのではなく、まちなかに賑わいを演出する仕掛けも同時に行うことによって仕掛けるという方策が、堀江の活性化のイメージに合うのではないかと考えた。

では、堀江でどのような「市」を仕掛けるのか。当時、大阪の南港でフリーマーケットが毎回若者を 5000 人集めていた。フリーマーケットの集客力とアメリカ村の横という堀江の立地を考慮し、「フリーマーケット」を「市」として仕掛けようという結論に辿りついたのである。

堀江はたまたまフリーマーケットを活性化の方法として選んだが、それぞれの地域にそれぞれの方法があると考えている。また時代が変われば活性化の方法も変わる。行政の補助金を使うための活性化方策よりも、まず地域自らがその時代とまちにあった活性化の方策を考えることが大切である。

### **地道な努力の積み重ねが、継続的なイベント開催に結びつく**

1回目のフリーマーケットが成功し、翌年から毎月1回定期的にフリーマーケットを開催することとなった。

マスメディアでは堀江の表の部分を紹介されることが多いが、継続的にフリーマーケットを実施できたのは、活動に関わった人々の地道な努力があったためである。

フリーマーケットを行う際には、車をすべて駐車場から移動するなど裏方の業務を活動の核となる人物が進んで行った。活動の核となる人が裏方業務を進んでやることで、周りの人間もついてくるものである。

何か活動すると必ず問題が発生する。フリーマーケットにおいてもつかみ合いのけんかが発生したり、宗教団体がフリーマーケットに出品したりと、ことあるごとに様々な問題に直面してきた。

堀江では何か問題が起きたときに、その場その場できっちりと対処することを特に大切にしている。問題が起きた際にその場その場できっちりと対処できていなければ、次にイベントを開催しようとしたときに「前回、あのような問題が発生したから、今回はやめておこう」という流れになり、活動が途切れてしまいかねないためである。

## 多様な主体に参加してもらうことにより、イベントに彩りを与える

現在でもそうであるが、活動の際には多様な主体に参加してもらうことを大切にしている。

外部の人々に参加していただくことによって、マンパワー的な部分での効果も大きいし、彼らから受ける影響というものも大きい。

特に若い子は我々がもちえないセンスを持っているし、「何かやりたい」という意欲を持っている。交通費程度しか支払えなくとも活動に協力してくれる。

外部に参加を呼びかけるときは、自分のネットワークを使うことが多い。私自身が学生時代に京都の情報誌の会社の立ち上げや音楽イベントに関わってきたこともあり、こういった経験におけるネットワークが活動に生きてくる。

多様な主体に参加してもらうことで、自分がまちをつくっているという意識が芽生え、継続的な活動に結びついてゆく。また、人が人を呼び、結果、活動の主体がどんどん増えていく。

## 時代の流れを感知しながら、まちを変化させる

フリーマーケットを3年も続けていると、「若者が何かできるまち」というイメージがついてきはじめ、若者がぼつぼつとお店を出してきた。それとほぼ時期を同じくして、アメリカ村などで有名ショップを展開していたオーナーによる出店も見られるようになった。

このような状況の中、従来のオーナーはおしゃれな店に店舗を改装するか、新たな出店希望者に店舗を貸すかの2者択一に迫られた。堀江が成功したのは、こういった流れを感知して、店舗貸しや業態変化に積極的に取り組んだことにある。

## 今後の課題は人と人との関係づくり

堀江では新たに出店してきたオーナーによって、新たな活動が生まれている。私たちが、先代に対して「口を出すな。金を出せ。結果を求めな」と言いながら、自由な活動をさせてもらった経験がある。そのため、できるだけこういった若手の活動には口を出さずに見守るようにしている。

一方で、これからも多くの主体を活動に巻き込んでいきたいと考えている。今の堀江にはさまざまな地域から、多くの人が集まっている。まず、こういった人々の横のつながりをつくっていくことから始めたい。

これまでの経験から言うと、理論でまちはつくれない。まちは人と人とのコミュニケーションによってつくられていくものだと思う。朝、会ったときに、「おはようございます」と挨拶を交わせる関係から作ってゆこうと思う。

エ 『つれもてやらら！まちづくり』ワークショップ 成果報告『ぶらくり丁周辺の明日に向けた私たちの提案』

パワーポイントを使いこれまで実施してきたワークショップの成果の発表を行った。

【商店街活性化チーム発表風景】



【核づくりチーム発表風景】



【暮らしづくりチーム発表風景】



【情報発信チーム発表風景】





プレゼン資料  
商店街活性化チーム

 <p>わたしたちの商店街「ぶらくり」へ</p> <p>つれもてやろら！まちづくり 商店街活性化チーム</p>	<p>ぶらくりの昔～ハレの場「ブラクリ」</p> 
<p>ぶらくりの昔～ハレの場「ブラクリ」</p>  <p>写真：すべて松並さんご提供 和歌山の中心地／まちの顔／おめかし／遊び場／人／お茶の香り／内川がきれい／老若男女が混在</p>	<p>ぶらくりの現状</p> 
<p>ぶらくりの現状</p> 	<p>ぶらくりの現状</p> 
<p>ぶらくりの担い手は誰だ？</p>  <p>✓それぞれの関係における「無関心」、「すれ違い」、「固執」が息詰まりを生んでいる。 ✓それぞれの関係性が育まなければ商店街の未来はない。</p> <p>◆それぞれみんな主役。それぞれの立場で商店街で過ごすことを共に楽しむことが大切。</p>	<p>悪循環からどうやって抜ける？</p>  <p>お客さんが来ないから魅力的な店舗は集まらない！</p> <p>魅力的な品物、お店がないから集客力が上がらない。</p> <p>できることからコツコツと！知恵を絞る！ 周りの方を巻き込んでいくことを考える</p>

事例紹介～ユニオン通り商店街の元気の素

組合理事会が先導的にまちづくりをしかける

商店街の宣伝～空き店舗誘致

～家賃の交渉～商売成功のためのアドバイスまで

- 理事会のメンバーが若い！
- 安い家賃で店舗を貸す！
- 大家・既存商店主・新規参入者から文句が出ない仕組みづくり
- 「大家さんがまちづくり」

ここが大事！  
(五十嵐さん)



わたしたちのアクションプラン

3つの場づくりについての提案

- ぶらくり逸店倶楽部(仮称)  
-ぶらくりのこだわりオーナー集団-
- ぶらくり友の会(仮称)  
-絆なぶらくり衆の集い-
- ぶらくり空き店倶楽部  
-ぶらくりのサポートスペシャリスト集団-

わたしたちのアクションプラン①

ぶらくり逸店倶楽部(仮称)

-ぶらくりのこだわりオーナー集団-

常時こだわり(逸品、サービス、店づくり、品揃え)を仕掛けるオーナー同士が、コミュニケーションを取り合っ  
てまちの雰囲気創出の相乗効果を図ります。



核となる主体: 商店主有志

わたしたちのアクションプラン②

ぶらくり友の会(仮称)

-絆なぶらくり衆の集い-



オーナーが商店街のなかでテーマをもって集まりを開きます。オーナーも、参加者もやっていて楽しいテーマがベスト。好きこそもの上手あれ。

核となる主体:  
商店主(商店街)+ぶらくりファン

わたしたちのアクションプラン③

ぶらくり空き店倶楽部

-ぶらくりのサポートスペシャリスト集団-

大家さん、商店主さん、不動産屋さん、出店打診者のコーディネートをおこないます。



核となる主体: TMO









ご静聴ありがとうございました





<p>『つれもてやらら！まちづくり』フォーラム ワークショップ報告</p> <p>核づくりチームからの提案</p> <p>2004 2/15</p>	<p><b>提案の背景</b>／なぜ、旧丸正の再生の提案か</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「ぶらくり丁の核」 ＝地域を活性化する起爆剤、情報発信の中心核が必要</li> </ul> <p>↓</p> <p>地元企業、行政による 旧丸正の再生の取組が進行中</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>旧丸正の再生のあり方を提案 現在進行している取組に対して、市民の視点から提案することが、本ワークショップの使命</li> </ul>						
<p><b>提案内容</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>提案①:コンセプト “ふらっと ぶらっと” 誰もが気軽にに行ける場所として再生</li> <li>提案②: 商業・サービス施設と公共施設の複合化 旧丸正は2万㎡超、中心部は公共施設が不足</li> <li>提案③: 民間企業のコスト負担の軽減 例)オーナー・出店者に対する経済的支援施策</li> <li>提案④: 集客力の高い公共施設に絞り込む 『屋内型の子どもの遊び場』の集客力に期待</li> <li>提案⑤: ボランティアによる市民参加の運営 持続可能な運営を可能とするシステムが必要</li> </ul>	<p><b>提案①</b> コンセプト “ふらっと ぶらっと”</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>基本的な考え方 旧丸正は、敷居の高い施設ではなく、誰もが気軽に 行ける場所</li> <li>ターゲット             <ul style="list-style-type: none"> <li>●女性と子どもを中心とした市民 →魅力ある施設とすれば、広域から集客可能</li> <li>●シニア → 自由にお金を使える世代の取り込み</li> <li>●中高生 → 賑わいの創出</li> </ul> </li> </ul>						
<p><b>提案②</b> 商業・サービス施設と公共施設の複合化</p> <table border="1"> <tr> <td>高層ゾーン (5F～7F)</td> <td>跡地利用全体の事業リスクを分散し、事業性を高める施設 例)オフィス(コールセンター等)、専門学校、クリニック・診療所、本屋、飲食店</td> </tr> <tr> <td>中層ゾーン (4F～5F)</td> <td>旧丸正周辺地区全体の集客力を高める公益性、文化性、目的性の高い施設 例)屋内型の子どもの遊び場、NPOセンター、生涯学習センター、大学交流センター</td> </tr> <tr> <td>低層ゾーン (B1F～4F)</td> <td>中層の公共施設等と一体となって広域から集客できる商業施設 例)まちの顔となるカフェ、大型専門店、食品スーパー、飲食店街</td> </tr> </table>	高層ゾーン (5F～7F)	跡地利用全体の事業リスクを分散し、事業性を高める施設 例)オフィス(コールセンター等)、専門学校、クリニック・診療所、本屋、飲食店	中層ゾーン (4F～5F)	旧丸正周辺地区全体の集客力を高める公益性、文化性、目的性の高い施設 例)屋内型の子どもの遊び場、NPOセンター、生涯学習センター、大学交流センター	低層ゾーン (B1F～4F)	中層の公共施設等と一体となって広域から集客できる商業施設 例)まちの顔となるカフェ、大型専門店、食品スーパー、飲食店街	<p><b>提案③</b> 民間企業のコスト負担の軽減</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>基本的な考え方             <ul style="list-style-type: none"> <li>・旧丸正は、バブル時代に再建された建物のため、税金や賃料が高くなる可能性がある。</li> <li>・建物を取得しようとする企業や、進出しようとする企業の事業意欲を冷やさせないことが一番重要。</li> </ul> </li> </ul> <p>↓</p> <p>オーナー・出店者に対する経済的支援施策が有効</p>
高層ゾーン (5F～7F)	跡地利用全体の事業リスクを分散し、事業性を高める施設 例)オフィス(コールセンター等)、専門学校、クリニック・診療所、本屋、飲食店						
中層ゾーン (4F～5F)	旧丸正周辺地区全体の集客力を高める公益性、文化性、目的性の高い施設 例)屋内型の子どもの遊び場、NPOセンター、生涯学習センター、大学交流センター						
低層ゾーン (B1F～4F)	中層の公共施設等と一体となって広域から集客できる商業施設 例)まちの顔となるカフェ、大型専門店、食品スーパー、飲食店街						
<p><b>提案④</b> 集客力の高い公共施設に絞り込む</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>屋内型の子どもの遊び場             <ul style="list-style-type: none"> <li>・メンバーが「これなら、自分も行く」と考えた施設</li> <li>・ぶらくり丁にも、「キッズステーション」</li> <li>・暑い日も、寒い日も、雨の日も、風の日も遊べる施設 →安全、安心で、子どもにも親にもやさしい施設</li> <li>・北九州市の「あそびのせかい」では、広域から集客</li> </ul> </li> </ul> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">  <p>砂場</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>知育玩具</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>プレイパーク</p> </div> </div>	<p><b>提案⑤</b> ボランティアによる市民参加の運営</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>運営への参加を通じて市民が交流             <ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢者や中高生が運営ボランティアとして参加 →子どもから元気もらう、おもしろいお兄さん、お姉さんとして慕われるなど、市民と子どもの交流により、人と人との絆やコミュニティを形成 →行政に頼らない持続可能な運営にもつながる</li> </ul> </li> </ul> <p>↓</p> <p>屋内型の子どもの遊び場は、 多世代にわたる社会参加施設</p>						



<p>『つれもてやろら！』 まちづくりワークショップ成果報告</p> <p>暮らしづくりチームからの提案</p> <p>平成16年2月15日（日）</p> 	<p>『つれもてやろら！まちづくりフォーラム』 2</p> <p><b>ぶらくり丁周辺の暮らして？</b> -さまざまな市民の思い-</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 魅力             <ul style="list-style-type: none"> <li>• 窓口サービスを利用しやすい</li> <li>• 車がなくても生活できる</li> <li>• 文化施設に近い</li> <li>• 城下町・緑と歴史のまち</li> </ul> </li> <li>• 課題             <ul style="list-style-type: none"> <li>• 賑わいの無い商店街</li> <li>• ぶらっと立ち寄れる場所がない</li> <li>• 日用品の買い物が不便</li> <li>• 出かける目的が見出せない</li> <li>• 捨てられない、過去のイメージ</li> </ul> </li> </ul> <p>まちの中心に賑わいがあれば文化が生まれ、豊かな生活が始まる。核づくりは、まちづくりの第1歩。</p> 
<p>『つれもてやろら！まちづくりフォーラム』 3</p> <p><b>ぶらくりは人の住むまち</b> -理想の暮らしを求めて-</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• わかりやすく安心感のあるまち             <ul style="list-style-type: none"> <li>• ぶらくりの魅力を再認識し、人とお店を住み分ける。</li> </ul> </li> <li>• ぶらっと立ち寄りたくなるまち             <ul style="list-style-type: none"> <li>• 大人と子どもの遊び場。</li> </ul> </li> <li>• 暮らしが充実しているまち             <ul style="list-style-type: none"> <li>• 買い物だけでなく、日常生活の楽しみがあるまち。</li> </ul> </li> <li>• 世代を超えた交流のあるまち             <ul style="list-style-type: none"> <li>• 新たな交流が生まれるまち。</li> </ul> </li> <li>• 誇りをもてるまち             <ul style="list-style-type: none"> <li>• 誰もが住みたくなるようなまち。</li> </ul> </li> </ul> <p>自分たちのまちに対する誇り</p> 	<p>『つれもてやろら！まちづくりフォーラム』 4</p> <p><b>ワークショップでの検討</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 暮らす場所として必要な条件は？             <ul style="list-style-type: none"> <li>- ぶらくり丁周辺に質の高い住宅を増やす                     <ul style="list-style-type: none"> <li>• 公営住宅など低価格で質の高い住宅の整備</li> <li>• お年寄りや障害者にやさしい住宅</li> </ul> </li> <li>- 空き店舗対策としての住み替えシステム                     <ul style="list-style-type: none"> <li>• 空き店舗の有効利用対策</li> <li>• 住み替えの動きと共に起こる新たなコミュニティの支援</li> <li>• 居住者支援サービス</li> <li>• 世代交代の促進・起業家への開放</li> </ul> </li> </ul> </li> <li>• まちの魅力を高めるには             <ul style="list-style-type: none"> <li>- ハードだけでなくソフトも重要</li> </ul> </li> </ul> 
<p>『つれもてやろら！まちづくりフォーラム』 5</p> <p><b>たまごが先か？ にわとりが先か？</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• ぶらくりは、和歌山市の顔。             <ul style="list-style-type: none"> <li>- ぶらくりが変われば街も変わるの？</li> </ul> </li> <li>• 人が先なのか、街が先なのか？             <ul style="list-style-type: none"> <li>- 住宅が増えれば、商店も増えるの？</li> <li>- 商店街が魅力的なら、住む人が増えるの？</li> </ul> </li> <li>• 森を見て木を見ないように、街を見て人を見なくなった。そんな気が・・・？</li> </ul> 	<p>『つれもてやろら！まちづくりフォーラム』 6</p> <p><b>ぶらくり丁にも新しい動きが！</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• まちは動き、ゆっくりだが進化し続けている             <ul style="list-style-type: none"> <li>- 新しいタイプのお店が増加                     <ul style="list-style-type: none"> <li>• 暮らし密着型のお店（八百屋さん、魚屋さん、惣菜店・・・）</li> <li>• 若者が買い物できるお店</li> <li>• 情報を発信できる場所（北プラ「ぶらっと」・・・）</li> </ul> </li> <li>- 新しい居住形態の実現                     <ul style="list-style-type: none"> <li>• ぶらくり丁周辺にも新築の動き（安価なワンルーム・・・）</li> <li>• 郊外から都心へ居住の動き</li> </ul> </li> </ul> </li> </ul> <p>まずは出来ることから始めよう！ でも、出来ることって何だろう・・・？</p> 
<p>『つれもてやろら！まちづくりフォーラム』 7</p> <p><b>定住促進に向けて・・・</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• ファーストステップ             <ul style="list-style-type: none"> <li>- ハードの整備は少しずつだが進みつつある                     <ul style="list-style-type: none"> <li>• 生活の基盤が整ってきている段階</li> </ul> </li> </ul> </li> <li>• セカンドステップ             <ul style="list-style-type: none"> <li>- 生活の質を高め、魅力的な暮らしを実現させる                     <ul style="list-style-type: none"> <li>• まちをアピールして定住を促進</li> <li>• 福祉施設の充実・各種サービスセンターの開設</li> </ul> </li> </ul> </li> <li>• ぶらくり暮らしの魅力を高めるスパイス             <ul style="list-style-type: none"> <li>- 人と人とのつながり・コミュニティの創造</li> <li>- 街のセキュリティーを高め安心感を共有</li> </ul> </li> </ul> 	<p>『つれもてやろら！まちづくりフォーラム』 8</p> <p><b>理想のまちに近づくために・・・</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• ぶらくりが変われば、街も変わる 和歌山市の創造(まちづくり)はぶらくりから！</li> <li>• 新しい交流(地域と市民)             <ul style="list-style-type: none"> <li>- これまでの連携・つながりという既存の資源を活かしながら新しいかたちの交流空間をつくらう。                     <ul style="list-style-type: none"> <li>• 商店街・婦人会・自治会・PTAの枠を超えて</li> </ul> </li> <li>- ぶらくり丁に暮らす人同志だけでなく、幅広い人間関係の交流を促そう。                     <ul style="list-style-type: none"> <li>• 地域と市民の交流を促す組織と場づくり</li> </ul> </li> </ul> </li> </ul> 

『つれもてやらら！まちづくりフォーラム』 9

## わたしたちの提案

### ぶらくり「暮らし創りサポートセンター」の創設

- ぶらくり暮らしの強い味方
- 私たち市民の手でまちを創っていく！！
  - 出来たら良いな・・・を実現するまち
  - 理想の暮らしは市民の声で創り出す
- 小さな種を大きく育てたい
  - 理想のぶらくり暮らしを追求しながら、和歌山市のまちづくりの輪を拡げたい

2004/2/15

『つれもてやらら！まちづくりフォーラム』 10

## 暮らしづくりチームからの提案

— 終わり —



2004/2/15

情報発信チーム

『つれもてやらら！まちづくりフォーラム』

### ■ワークショップ報告■

情報発信戦略チームからの提案

2004/2/15

### ■私たちの提案

## 『ぶらくり ENCYCLOPEDIA』

～ぶらくりの百科事典をつくろう！～  
エンサイクロペディア

### ■なぜ“ENCYCLOPEDIA”なのか ①

ぶらくりからの情報発信を今一度考えみると

	今まで...	これから
情報発信の目的	商店街への買い物客を増加させること	ぶらくり丁に關わる人々を増加させること
情報発信の対象	消費者中心	關わりをもつであらう人(子供から学者まで)
情報の内容	買い物情報 イベント情報	上記の人がそれぞれに一番欲しい情報

### ■だれがどんな情報を？

たとえば...

音楽ライブイベントを やりたいサークル	過去開催のイベントの記録 ・商店街の窓口 ・電線とれる場所 などを知りたい
都市計画を 研究する大学助教授	まちの裏面(歴史、裏面、統計データ) ・ゆかりの名士 などを知りたい
ぶらくり丁でお店に チャレンジしたい人	空き店舗の情報(場所・広さ・賃料・お隣さん) ・商店街の状況(マーケット情報) などを知りたい
ぶらくり丁周辺での 居住を考える若夫婦	居住物件の相場 ・公共サービスの状況 ・子育てサークルの活動状況 などを知りたい

一番情報を欲しがっている人に最適の情報を提供することが重要ではないか？

### ■“ENCYCLOPEDIA”の目指すところ

- 現状 「ぶらくりで何かをやりたい人は、すべて「1～いち」から情報を集める苦勞をしているのではないか...」
- ⇒少なくとも「要らない苦勞」を同じように繰り返すことは避けたい。
- そのために、提供できる「データ」として情報を蓄積し、必要とする人に提供する仕組みをつくらうだろうか。
- これは、付随的に、変貌しつつあるまちの「PR」にもなるはず。

### ■“ENCYCLOPEDIA”のデータ例

- ぶらくり丁の店の数／種類の推移
- ムリきいてくれるお店の情報
- 空き店の家賃(テナント料)・広さ・立地
- ぶらくり丁周辺道路の道幅・公共スペースの広さ
- 自販機の位置と数の推移
- マンション家賃／駐車場料金の推移
- 訪問者回遊調査や各種アンケート調査の結果
- イベント用電源の位置・容量
- 過去イベントの失敗例(経緯の記録)
- ゆかりの人 データバンク などなど



## ■“ENCYCLOPEDIA”実現方策

- インターネットを活用しよう。(ネット利用者が情報提供でき、自動的に更新される仕組みに...。もちろん、情報の信頼性を保つための「統括責任者」は必要!) ⇒ ネットでの情報入手も可能
- TMO(株)ぶらくり+和歌山市+和歌山大学+NPOによる**プロジェクトチーム**を立ち上げることができればベスト!(まちづくり工房「ぶらっと」が情報拠点?)
- 毎年「重点テーマ(今年は「まちの寸法」にこだわる、など)」に基づく情報収集をしていきたい。

## ■展望

- すぐに効果の出るプロジェクトではない。
- しかし、「ぶらくり」が、**まちとしての魅力・包容力を付ける**ためにも、絶対に必要なプロジェクトだろう。
- 今後、**長期的な展望**をもって取り組むべきプロジェクトとして提案したい。

## ■ワークショップ報告■

情報発信戦略チームからの提案

『つれもてやろら!まちづくり』フォーラム

オ 講演『まちづくりの「オーナーシップ」をつれもて考えよう！』

角野 幸博 氏(武庫川女子大学生生活環境学部教授)

主体性をもったまちづくりに取り組んでいくためのポイントとなるお話を伺った。

#### 【講演概要】

#### 和歌山市は「いけそうな」まち

ぶらくり丁界隈に人がいないことが不思議である。和歌山市は県庁所在地であり、城下町としての歴史もある。取り組みが足りないのかと思ったが、ワークショップの取り組み等をみるとそんなことはない。「これはいけそうだな」という気がする。その、「いけそうだな」というキーワードがここで言うオーナーシップである。



#### ぶらくり丁界隈(商店街)に必要な4つの機能

##### 都市の記憶装置

まちの一番の中心の場所にはそのまちの歴史が地層のように積み重なっている。川、お堀、通りのあり方や店の位置、交差点の景色など全てに理由があり多くの人の思い出が詰まってきたこの場所には、郊外型の大型店舗には太刀打ちができない魅力がある。

##### 都市の教育装置

商店街は子どもの社会教育の場である。学校の中だけでは受けられない教育がまちの中にはある。今回のプログラムに参加されている和歌山大学の学生さんは恵まれている。

##### 都市の交流装置

そこに行けば誰かに出会える。しかも、それは意図しない出会いであり、思いもしない出会いである。そこから様々な交流が始まり、世代間、地域間のコミュニケーションが生まれる。

##### 都市の生命維持装置

商店街は郊外のショッピングセンターにまとめ買いに行くことの出来ない高齢者や子ども達のほか、仕事上、夜遅くまで働かなければならない人達にとっての生命維持装置である。

#### ぶらくり丁界隈(商店街)の機能を維持し、向上させるための条件

##### 都心居住の推進

もともと商店街には人が住んでいた。いわゆる都心居住である。まちの賑わいづくりは住む人、訪れる人、商売をする人と大家さんの責任である。オーナーシップの考え方は単に権利を主張する話ではなく義務もある。大家さんは空き店舗を放置せず、妥当な価格で貸すなり売るなりする義務があるのではないか。

##### 公共公益施設の呼び戻し

和歌山大学が郊外にあるのは残念だが、市役所や公共施設等は都心にある。この恵まれた条件をうまく活用したネットワークを考える必要がある。

##### 大型店との共存

時代とともに中心市街地の核になり得る施設も変わるだろうし、その場所もある程度動くものである。次は何処に動くかという大きな流れ、メカニズムを読んでいくことが重要である。



## 個人商店の育成・支援

商店街には個店とまちの両方の魅力が揃う必要がある。古くからの業態転換により店の魅力を高めることと、やる気ある新たな動きを受け入れていく受け皿づくりが重要である。

### 公共交通の整備および歩いて楽しめるまちづくり

地方中小都市の場合は家から商店街の近所まで車で来ても良いと思う。ただし、「歩いた方が楽しい。ここは歩かなければ損だ」と思わせるような仕掛けづくりや、この狭いエリアの中だけでも100円バスを運行する等、柔軟にまちの魅力を作っていくことが必要である。

和歌山市を歩いていると水に親しめる空間があり、ランドマークのお城も時々垣間見られる。通りは単純な碁盤目だが都市デザイン的な発想を加え、通りを歩くことで思わぬスポットを発見できるならば面白いまちができるのではないだろうか。

## まちづくりのオーナーシップとは

### 「いきつけのまち」と「わがまち」の意識、まちに関わることの楽しみ喚起

まちを動かすために必要な『オーナーシップ』とは、「いきつけのまち」をつくり、「わがまち」を実感することであり、まちづくりに関わっていくことを道楽として楽しむことである。

### オーナーシップの事例

北海道の帯広における屋台ビジネスが成功している。空き駐車場にビニールハウスのフランス料理レストランを開いてお客を集めている。実施主体者は地元の若い経営者達や商売とは関係の無いお医者さんなどの参加もある。まちづくりへの関わり方は全くの自由なのである。

### 共同体意識

やっている人の共同体意識。これに一般の市民の人達が上手く乗り、共に関わっていく仕組みが必要。個々が好き勝手にバラバラにやるのではなく、情報交換をしていくような仕掛けや、それぞれの活動を有効に組み合わせる仕組み作りが重要である。

## オーナーシップ導入の効果

### 市民が当事者意識を持つことによるまちのブランド化および住みごたえのあるまちづくり

まちづくりに対して一人一人の当事者意識が高まってくると、個人がまちのPRをし始める。こうして、まちのブランドができあがり、そういうまちに住むことが楽しくなってくる。

都心居住の魅力は、遊び場に近いか交通利便性が良いといったことではなく、実は、まちのいろんなことに関われるということではないだろうか。

カ パネルディスカッション 『つれもてやるら！まちづくり』

能口氏のご報告、ワークショップの成果報告、角野先生のご講演をふまえて、和歌山でご活躍の方々を迎えてパネルディスカッションを行った。「つれもてやるまちづくり」において、重要となる要素や求められる視点について、問題提起をしていただいた。

コーディネーター

角野 幸博 氏 (武庫川女子大学生活環境学部教授)

パネラー

能口 仁宏 氏 (大阪・堀江ユニオン副会長)

本多 友常 氏 (和歌山大学システム工学部教授)

道本 浩司 氏 ((株)サイバーリンクス)

岩橋 瑞子 氏 ((株)和歌山リビング新聞社)

有村 慶太 氏 (和歌山大学 学生)



「一人のスターが何かをやるというような時代はもう終わっていて、みんなで課題を考えていくというようなことが和歌山でも現実的に起こりはじめています。このワークショップにしる、和大学生の公共事業への参加にしる、情報化社会の中で非常に重要になりつつある。これからは、“公開を前提として複数の知恵を組み立てながら新たな創造性を模索していく、”ということが、今、まさに行われつつあります。」 - 本多氏

「人間の営みの原点となる“食、”を原点にして、さまざまな動きをしているグループ、ボランティアを引っ付けてですね、力を合わせる、それが今一番大事だなと。それらが連携して分担する中で、継続性を持って、皆さんで和歌山全体を作っていくという動きに変わってくる。行政に頼らない持続可能な運営形態。まさにこれだと思います。」 - 道本氏



「今まちづくりで非常に大事なのは特に内に対する情報の発信。ぶらくり丁周辺がどういった将来像に向かって進んでいくのか、これを地域で共有することが非常に大事なのではないか。一つの目標みたいなものがまちのみんなで共有できれば、何か一つの夢なり、将来像となって全体の動きが活発になってくるんじゃないかなと。」 - 岩橋氏

「大学時代に和歌山に来て、ぶらくり丁の印象は“かなり人が少ないな…”。ゼミでまちづくりに携わるようになって、まちと学生をリンクさせる動きを起している。何かを感じたときに、実践的に動きを起すことが非常に大切だと思うんです。“いっちょやったる精神、”です。」 - 有村氏



## 【パネルディスカッション概要】

### 「つれもてやろら！まちづくり」の情報

- ・ 「あそこ良かったわ」と伝えることが、情報誌などのメディアを作る基本。お金儲けを目的としたメディアではなく、本当に昨日何か肌で感じたことを知り合いに、せっかく良い体験をしたからそれを第三者に代弁してもらおうという気持ちで作るのが大事。(能口氏)
- ・ 今、「Bravo」と「ぶらっと」というコミュニティの情報拠点があるが、そういうメディアミックスがもっと必要。今後「Bravo」にも期待したいし、「ぶらっと」も市民の多くの人に活用してもらいたい。  
(岩橋氏)
- ・ 和歌山には 1000 近くのボランティアグループがあるが、まだ連動していないのが現状。そこにリアルな交流が生まれる媒体となるような情報を仕掛けていくことが重要。(道本氏)
- ・ インターネットラジオ「UWU」は地域外への発信も可能にしている。こういった時間、空間の壁を越えた情報発信も重要な視点。(有村氏)
- ・ 情報と、そこにある出会いや体験のマッチングも重要になってくる。まち並みから見えるようなリアルな情報も必要。空間的、肉体的に絡む情報が求められている。(本多氏)
- ・ 議事録などの情報だけでなく、「生々しい状態」を、ITなどを駆使して発信することが大事になってくるのでは。(道本氏)
- ・ ホールを外から見える1階に置くとか、このようなディスカッションが歩いている方に大きなヴィジョンで映し出されているとか、自然に見聞きできて、自然に参加に繋がるような仕組みが大切。(角野氏)



### 「つれもてやろら！まちづくり」の巻き込み方

- ・ 学生がまちなかに関わってくるようになったが、4年間過ぎたら出ていってしまう。人が変わっても何か繋がっているような伝承を仕掛けていくことが必要である。(角野氏)
- ・ 参加してくれるきっかけを仕掛けて、参加してくれたときに心の感動を味あわせてあげることが大切。参加してみてもいいものじゃなかったら、二度とこない。結果として、ものすごく楽しかった、また行きたいねと思わせたら、それを何回か繰り返していくことに、カルチャーというかパワーが出てくる。(能口氏)
- ・ 行政におぶんにだっこじゃございません、そういうふうな市民組織を作らないと絶対ダメだと思う。いろんなリーダーが有機的につながるような場の段取りを行政にお願いしたい。(道本氏)
- ・ 個人的に、ふと振り返ってみて「僕の人生何だったんだろうな」と思うのがすごく嫌。商店街に住んでいる方、商売やっておられる方も、是非「いっちょやったらか」精神を発揮していただきたいと思う。(有村氏)
- ・ 人間とは、変わっていくということに対してなかなか勇気を出せないものである。だから「自分がやる」と宣言することも大切なことの一つだろう。(本多氏)

### 商店街の「つれもてやろら！まちづくり」

- ・ 唯一のものを探していくというのではなくて、とりあえずテーマ性を見つける。そこに市民をネットワーク化していったら、一方で安い賃料にして新陳代謝を起す、この3つが重要な視点。  
(本多氏)
- ・ マクドナルドの向かいに中古レコード屋さん、もと寝具屋だったであろうお洒落なインテリアショップ、その向かいのアジア雑貨屋、ちょっといかかわしいお店など、何か感じる店はある。ぶらくり丁でそういう「何か感じるような」思い出を作ってあげることが大切。(能口氏)

- ・ かつては、店と店、点と点が線になっていて、アーケードを歩くのを結構楽しんだ時期もあったが、今は目的の店に行ったら帰ってしまう状況。「通り」づくりが大切。まだまだぶらくりの周辺にはビジネスチャンスが一杯あると思っている。(岩橋氏)
- ・ アーケードの商店街で成功しているまちはほとんどない。突然空家があったり、突然そこに大木があったり、和歌山城が見えたり、川があったり、多様な空間の体験が活きるようなものが必要。(本多氏)
- ・ 和歌浦などの資源も活用するなど、周辺とのネットワークを考えていく必要があるのではないか。周辺と一体的に知ってもらって、それで来てもらった時には、やはりぶらくりを体験できるようなしつらえをするべきである。(本多氏)
- ・ あまりにも有名な、行っても楽しい岐阜高山の朝市。はじめは大変だったろうと思うんです。朝市を全国的に有名にするまでに、随分とコツコツとしたことをやっていたのだろうと。そういう継続性、たとえ10年かかってもコツコツやるしかないのだと思う。(道本氏)
- ・ 帯広の北の屋台は本当に参考になる。中心市街地がさびれていく中で、地元の若い40くらい人達が中心になっているいろいろ勉強された。当事者意識をしっかりと持って、仲間で本当に知恵を絞ればあのような活性化も可能になるのだ。(角野氏)



### 住まいの「つれもてやろら！まちづくり」

- ・ しばらく和歌山を離れていたが、だんだんと和歌山市に戻りたいという自分がいて、そういった動きが結構みんな広がってきているのではないかと。ぶらくりが住まいの場として見直される時期に来ているのではないかと。商店の人達も含んだ形の生活づくりが重要である。(道本氏)
- ・ 都心居住と公共交通は不可分なものである。堺などでもLRTの復活などが検討されているが、都心居住のモビリティを高める視点は重要である。(角野氏)

### つれもてやろら！まちづくり！ - 総括

- ・ 「つれもて」というのはまちにどのように関わっていくか、仲間同士がどう関わるかということ。つれもてやるには、行きつけのまちと行きつけの店があればいい。「行きつけ」であるということは、「お金も払うが意見も言えるという相互にやり取りできるという関係がある」ということ。このことが、つれもてやることの本質だと考えている。このとき当然、権利を主張するだけでなく、そのものに関わると言うことに対して義務が発生する。まちにずっとほったらかして建物をもち続けることの責任を私は追及したい。もし自分で商売をされないのであれば、他の人に貸してあげるべきだと思う。それがオーナーの責任である。その一方で、まちや店に口出しする市民にも責任というのがある。それが「つれもてやろら」の関係だ。オーナーや商店街と市民がそれぞれの立場で考えていけたら、まちは本当に元気になるのではないかと。(角野氏)





## キ 閉会挨拶

### 【概要】

堀江ユニオンの能口様にはまちづくりの実践者としてのご意見を、武庫川女子大学の角野先生にはまちづくりとオーナーシップに関するご講演をいただいた。また、パネルディスカッションでは、ワークショップ参加者にはまちづくりの熱い思いを聞かせていただいた。和歌山市のまちづくりを進めていく私どもにも心強い限りである。

本フォーラムをきっかけとし、市民の皆様と一緒に  
なってまちづくりを進めていきたい。



[Web ページへ戻る](#)